

神樹の会会報

No. 37

平成 7 年 12 月 20 日

発行所: 神樹の会

発行人: 水野 整一

本部事務所(六甲作業所内)

〒657 神戸市灘区備後町3丁目2番22号 ☎ 821-1533

六甲作業所、東部ディーサービス ☎ 821-1533

明芳ディーサービス ☎ 735-8835

垂水作業所 ☎ 782-9675

〒655 神戸市垂水区星陵台4丁目4番45号 ☎ 782-9675

福祉の店“いたやど” ☎ 733-2477

〒654 神戸市須磨区大黒町2丁目2-12 ☎ 733-2477

(事業所)

去る九月七日に神戸文化ホールで行なわれた平成七年度神戸市社会福祉大会において、次の方々が神樹の会推薦で表彰・感謝状を受けられました。おめでとうございました。

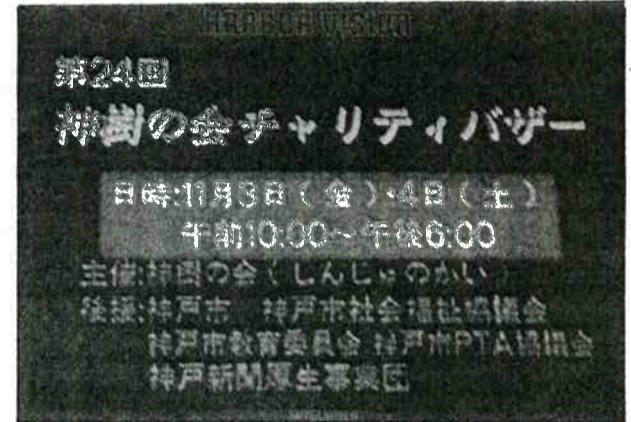
市長表彰
心身障害者自立援助功労者の部
社会福祉協議会理事長感謝状
奉仕活動の部
* 鄧冥城
永年勤続功労者
橋本トシミ 須磨女声コーラスグループ
兵庫銀行しあわせの募金の会
川原卓郎(垂水作業所指導員)
敬称略



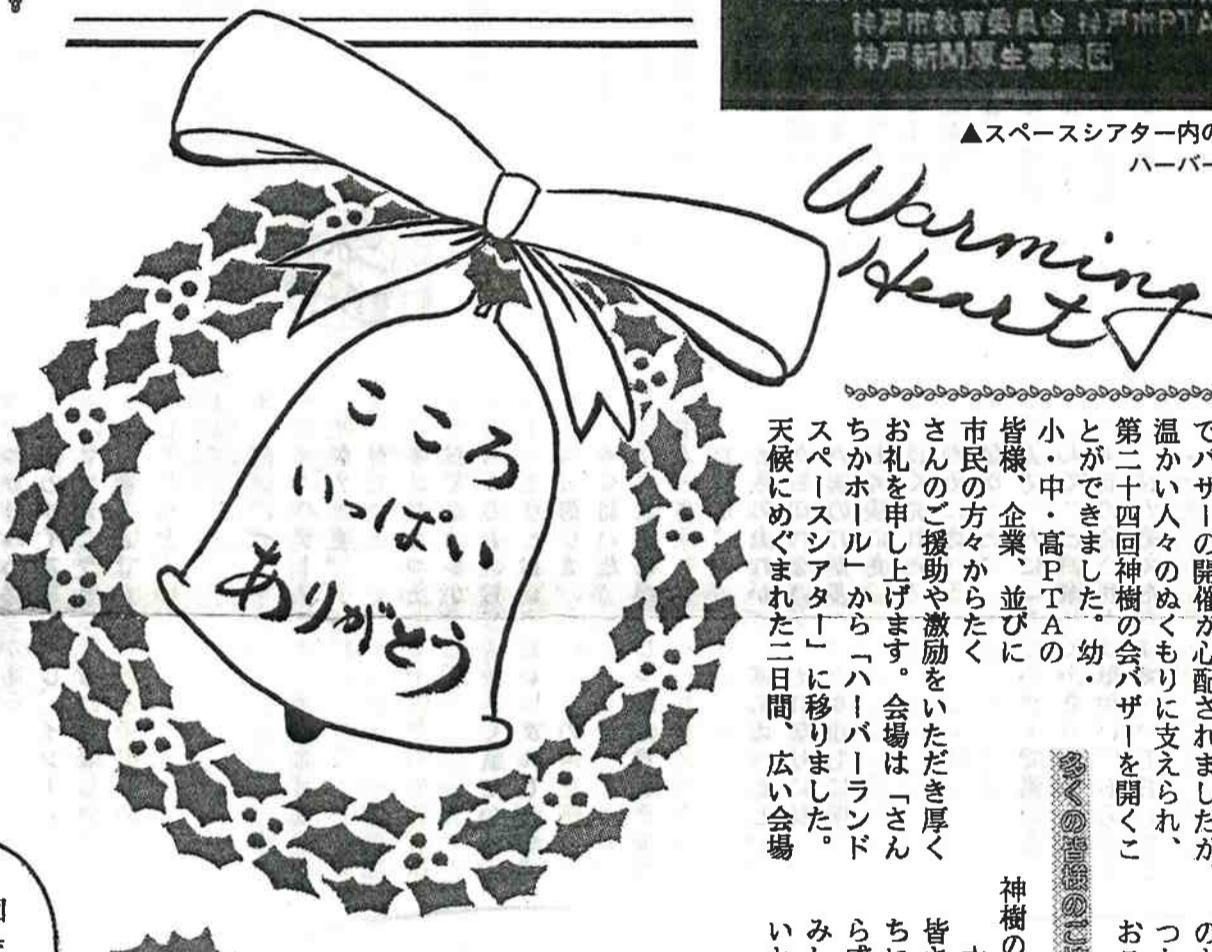
▲バザー会場の様子

震災により開催が危ぶまれていた第24回神樹の会バザーが、11月3日・4日の両日神戸情報センターのご厚意により、ハーバーランドスペースシアターで盛大に行なわれました。この収益により、神樹の会の各事業が円滑に進められ、また重度障害者のために数々の場が用意されていくその目的に近づくことができることをうれしく思っています。これも多数の皆々様の絶大なるご支援とご援助のお陰でありますことを覚え、心より感謝申し上げます。

Thanks



▲スペースシアター内の停止画面
ハーバービジョン



阪神・淡路大震災から十か月余が経過しました。今年はこのような中でバザーの開催が心配されましたが、温かい人々のぬくもりに支えられ、第二十四回神樹の会バザーを開くことができました。幼・小・中・高 P.T.A. の皆様、企業、並びに市民の方々からたくさんのご援助や激励をいただき厚くお礼を申し上げます。会場は「さんちかホール」から「ハーバーランドスペースシアター」に移りました。天候にめぐまれた二日間、広い会場

は市内や近郊からの若い人々、家族連れなどの来場者で一杯でした。山のような善意の品物の梱包から始まつた諸準備。ひとつひとつが思いおこされます。目的に向かって手をたずさえての毎日でした。友生・垂水養護学校の先生方の強力なご支援、会員の皆さまのご協力で今年も大成功のうちに終えることができたことを心から感謝し、共に生きていく喜びをかみしめ今後も一層努力をしていきたいと念願しています。

神樹の会会長
水野 整一

收支決算

収入の部	支出の部
第1日目売上 3,788,774	会場使用費 346,904
第2日目売上 2,738,785	会場設営費 507,790
会場募金 12,189	文書印刷費 76,100
寄付金 1,284,473	備品及梱包費 76,610
	手芸材料費 61,039
	通信費 152,187
	事務費 46,198
	交通費 119,150
	雑費 252,483
計 7,824,221	計 1,638,461

差引収益 6,185,760 円

I このゆびと~まれ:

雑感

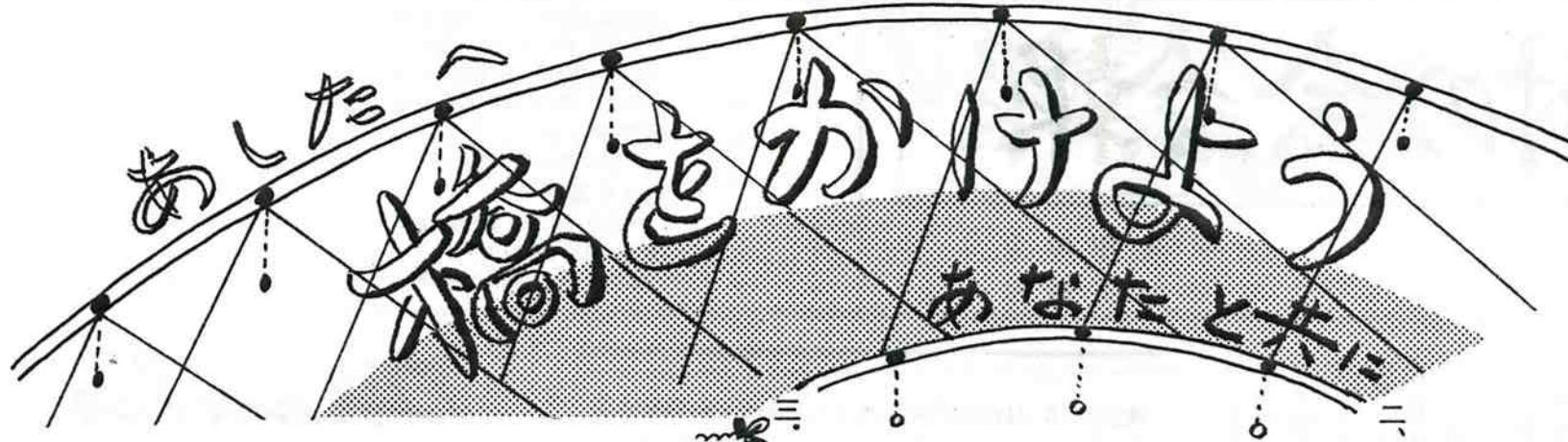
武長真佐美

最近何だか気になっていたことがあります。それは出かける前になると、必ず体調を崩してしまうということだ。ついこのあいだも楽しみにしていたコンサートに出かける朝。目覚めてみると身体が重く、怠いのだ。いつものことと変わらない。今夜のライブはどうしようなどと悩んだあげく、倒れそうになりながらも身支度を整え、とにかく家を出る。何もそこまでして出かけなくともよいだろうと思われるだろうが、いつもしんどいのはそこまでなのである。家から距離が離れるほどに倦怠感は消え、いつの間にか体調は普段と同じものとなっている。

先日精神科の先生と話す機会があった。彼曰く「それは無意識のうちに、障害者を置いて出かける自分の後ろめたさが、身体の症状として出ている。」のだそうだ。そういう不調になるのは決まって独りで出かける時ばかりで、倦怠感、吐き気、時には熱さえ出る。付き合うのはなかなかに難しい。なぜならそれは夫婦の関係にも似て、何とか折り合いをつけて仲良くやっているようでいて、実際陰で何をされているのかよくわからないこともあるからである。

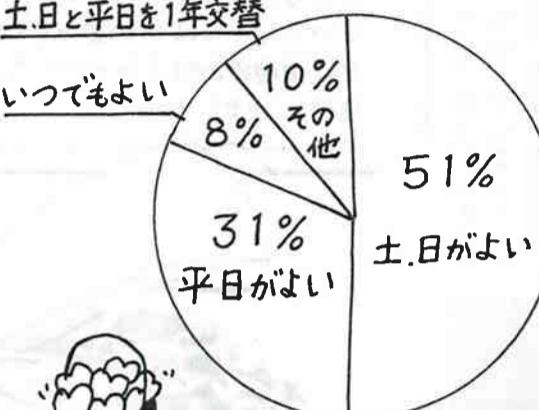
(友生養護学校小学部二年生母親)





アンケート実施

開催日は?



* * * * *

全体的にゆったりしていてよかつた。
広くてお客様も買物がしやすかつたのでは…。
売場によつては台の外側にふちがほしかつた。
鏡があればよかつた。
午後の手伝いも多いようでよかつた。
残りのダンボールを置く場所が確保できた。
陳列がぐるつと見渡せて買いやすいように思つた
警備のため売場の外側にも出た方がよい。
文具は商品の整理をしたほうがよい。
個々の売場が分かるように看板を出して欲しい。
もう少しディスプレイに工夫を。
売場で飲食しないで、休憩所として欲しい。
梱包のときタオル、バスタオル、シーツと分け
売場でも分けておいた方が買う人が見やすい。
途中からいろいろなコーナーがでましたがいい
いアイディアだつたと思う。
隣に何がくるかで品物のイメージが変わる。

* り多く聞いた。

* 今年は会場が変わったのでホテル利用のお客様も多く来られお客様の層が変わった。

* 客数の流れが三の宮に比べると少ないかも知れないが、それなりに良い。

* 外国の方が多かつたが親切に接した

* お客様に商品のこと少し説明すると良く売れた。

* 例年に比べるとしつこく値切る人が少なかつた。

* 値切る人に「このバザーで値切るなんて」と憤慨して下さり感激した。

* 神樹の会バザーは毎年いいものが出来ると目の肥えた方は気付いておられるしかつた。

* 「また来年も来ます。」と言われ嬉しかつた。

* 不審な行動をとられる方があつた。

The book cover features a white background with black line drawings. At the top right is a stylized cloud-like shape. Below it is a vertical rectangle containing the author's name '原真きよ子'. To the left of the title, there are two small, irregular shapes. The title '生きていこう 元気を出して いつかはきっと' is written vertically. The author's name '磯部 きよ子' is at the bottom left. A decorative illustration of flowers and leaves is at the bottom right.

平成七年七月より十二月までに次ぎ
の会員の方々が亡くなられました。心
よりお悔み申し上げます。

田原 一枝様(昭和五十五年度卒)
田原 裕さん母親
牛村 憲由様(昭和四十四年度卒)
故牛村恵子さんの父親

藤沢 孝敏様(昭和四十四年度卒)
友生養護学校卒業)

いいことがあるはずだから
生きていれば また逢えるはずだから
どうか今、少しだけ顔を上げて
空を見上げてみてください
きっと今、あの人もどこかで
同じ空をみているから
そして
いつでも あなたのことを
思つて いるから
どうかもう一度元気を出してください。
(1995.1.19 阪神・淡路大震災三日目)
私はなんの成す術もない。

バザーの会場が、今年は震災のために二十三年間利用していた「さんちかホール」から「神戸ハーバーランドス」へスシアターへ変わりました。よい点、反省すべき点戸惑われたことも含めて売場にいられた方々にアンケートを頂戴しました。今後の参考になればと願っています。

配布数 248
 回答数 179
 回收率 78%

感謝
平成七年七月より十一月までに次ぎの
方々より尊い寄付をいただきました。

の感想
こと、こんなこと

今年は震災プラスなので安く
て売りやすかつた。
梶包のとき手薄だった。
搬出は手際良く出来て良かった。
もう少し早くPRすれば良い。
いわくつきの村のミニゲート車

* 神樹の会に望むことは時代と共に変わってくると思う。数年に一回はアンケートをとり方針を立てて欲しい。
秋は子どもの状態が安定しなくてバゲーに参加しないのが義務でも実現して欲しい。